

## はじめに

われわれは、普通、情報を得るために、知的好奇心を満たすために、そして楽しむために文章を読みこすすれ、決して問題を解くために文章を読んだりはいしない。問題を解くために文章を読むなどという行為は、クイズや受験という特殊な領域でのみ課せられる特殊な行為なのである。そこで問題を解くために文章を読むのなら、問題が解きやすい、すなわち解答が出しやすい効果的な文章の読み方というものが無いだろうかという疑問が生じてくる。実は、これが「受験の現代文」に要請される第一の課題なのである。

ことわるまでもなく、「受験の現代文」には問題作成者によって問が設定されている。問題を解くために文章を読むという行為が特殊であるのと同様に、問題を作成するために文章を読むという行為も特殊である。そして、もし、問題作成者が問を立てるために文章を読むとき一定のきまつた読み方というものがあるならば、解答者はその読み方に自分の読み方をできるだけ重ね合わせて文章を読めばよいということになるだろう。

それでは、問題作成者は文章をどのように読んで問を立てているのだろうか。問題が問題として成立するためには、一応客観性をそなえていなければならない。誰が見ても解答が一つの方向に決定するという客観的なレヴェルで問題が設定されておらず、様々な方向の解答が可能だとしたら、問題として失格だからである。では、何が問題の客観性を保証するのだろうか。これには、文章問、あるいは語句問の「関係」であるが一応答えることができる。文中

に同一内容の相異なる二つの表現が見いだせるとき、一方の箇所で「どういふことか説明せよ」という問を立て、他方の箇所を踏まえて解答を出させるといふ問題が成立する。さらに、じかに同一内容の箇所を抜き出させる問題も可能だし、そこを根拠にして正解を選ばせる選択型の問題も可能だろう。これらは文章中から抽出された同一関係という客観的な関係に即して設定された問題なのである。また、文章中に因果関係が見いだせるときには、結果に相当する表現のところで、「なぜか説明せよ」といふ問を立て、原因に相当する箇所を踏まえて解答を出させるといふ問題が成立する。対比関係が見いだせるときには、「両者の違いを述べよ」といふ問題も成立するだろう。結局、出題者は、文章を読みながら、同一関係、対比関係、因果関係といった文章を構成する客観的な関係に着目しつつ、それらの関係に即して問を設定しているのである。

それならば、われわれ解答者もそのような客観的な関係に留意しつつ文章を読み込む訓練を積み上げればよいだろう。出題者が問を立てるために文章を読むときの読み方を修得することほど、受験の現代文において効果的な学習方法はないのである。そして、よく口にされる現代文の読解力とは、文章間の客観的な関係を的確かつ敏速に把握する能力のことなのだ。ただし、このような読解力が一朝一夕に身につくと錯覚してはならない。より多くの文章の読解を通して関係をつかむ訓練を自覚的に根気よく積み上げる以外に、「受験勉強」において読解力を伸ばす道はないのである。そして、この問題集は、このような訓練のためのより効果的な場として編集されている。われわれは、諸君がこの問題集をその訓練の場として思う存分活用し、入試を突破するのに必要な読解力を十二分に養成してくれることを願って止まない。

## 本書の構成と使い方

1 本書は第一部「典型問題編」と第二部「演習問題編」から構成されている。第一部「典型問題編」は、同一関係、対比関係、因果関係、具体―抽象の関係、そして比喩の関係という五つの基本的な関係によってそれぞれが構成された典型的な文章を問題文として掲げている。これらの基本的で客観的な関係を的確に把握することができれば、問題文の正しい理解が得られると同時に、中心となる問はこれらの関係に即して設定されているので、その間にも的確かつ敏速に解答を出すことができるということを事例として示したものである。

2 第一部「典型問題編」の主眼は当然問題の後に付してある▼本文解説▲、▼設問解説▲という、「解説」のほうにあるのだが、解説をいきなり読んだりせず、その前に必ず自分の力で問題文を読み、問題を解いてほしい。その後で解説を読めば、自分の読みのどの点が甘く、今後どういう点に注意して問題文を読み、問題を解けばよいかを確認できるだろう。「典型問題編」のねらいは、「演習問題編」に諸君が取り組む前段階として、典型的な問題文を通して文章の基本的な読解法を提示することにあるのだから、「典型問題編」を一通りこなしてから「演習問題編」のほうへ移ってほしい。ただし、「典型問題編」の問題に困難を感じたら、飛ばして「演習問題編」のほうへ入ってしまうでもいいからかまわない。読解力がついたと実感できた段階で戻ればよいだろう。しかし、少なくとも、「典型問題編」の第一章から第三章までは十分に理解したうえで、「演習問題編」に取り組んでもらいたい。

3 「典型問題編」では問題文を再録し、色分け（グレーとピンク）や線や矢印を使って文章間の基本的な関係が示されている。問題文を理解するうえで参考にしてほしい。

4 第二部「演習問題編」は十章から成り、章立てはジャンル別になされている。ジャンル別による章立てはあくまでも便宜的なものであり、大学入試によく出題されるジャンルという点が考慮されていることを除いて特別な意味はない。ただし、「演習問題編」に収められている各問題は入試問題のなかからたび重なる検討を経て選び抜かれたものである。

5 「演習問題編」の各章は、**A**・**B**の二題から構成されている。各章とも、**A**には標準的な問題、**B**にはやや難しめの問題が置かれている。また、各章は必ず記述問題を含んでおり、客観型のみならず記述型にも対応できるようになっている。

6 「演習問題編」の各章は、**A**から**B**に進むにしたがって難易度が上がるのだから、必ずしも、第一章の**A**・**B**、第二章の**A**・**B**……と順序よく問題をこなしていく必要はない。まず各章の**A**をすべてこなし、次に各章の**B**へとグレードを上げていってもいいだろう。

7 別冊子の解答・解説は基本的に第一部「典型問題編」のそれとはほぼ同要領で書かれている、そして、本書の解説の特徴の一つは、▼本文解説▲と、▼設問解説▲とがきわめて密接な関連性をもって書かれているところにある。

これは、問題文をどのように読むことが設問に解答を出すうえでより効果的かという本書の課題から必然的に導き出された結果であるが、すべて▼設問解説▲は▼本文解説▲を前提にして書かれているので、▼設問解説▲だけ読んだのでは意味をなさない。したがって、必ず▼本文解説▲をよく読んだうえで▼設問解説▲を読んでほしい。そして、問題文をどのように読むことが解答を出すうえでより効果的かということについての感覚を磨いてほしい。

8 別冊子の▼本文解説▲には「読解のポイント・チェック」のコーナーが設けてある。ここを参考にして問題文の読解が適切であったかどうかを確認してほしい。また、「典型問題編」と「演習問題編」を通して解説の最後に「覚えておきたい言葉」のコーナーが設けてある。よく読んで習得に努めてほしい。

9 最後に、再録した問題文に付した記号や解説中の図式で用いた記号についての基本的な約束を記しておく。

、	同一関係、比喩の関係、具体―抽象の関係を示す。
○、↓	対比関係を示す。
↓	因果関係を示す。

# 目次

## 第一部 典型問題編

- |   |             |                   |    |
|---|-------------|-------------------|----|
| 一 | 同一関係を読む     | 清岡卓行「手の変幻」        | 14 |
| 二 | 対比関係を読む     | 江藤 淳「一族再会」        | 24 |
| 三 | 因果関係を読む     | 田中美知太郎「歴史主義について」  | 36 |
| 四 | 具体―抽象の関係を読む | 丸山圭三郎「文化のフェティシズム」 | 51 |
| 五 | 比喩の関係を読む    | 三島由紀夫「法律と文学」      | 69 |

## 第二部 演習問題編

### 文化(I)

〔A〕 多田道太郎「複製芸術論」……………88

〔B〕 松葉一清「幻影の日本——昭和建築の軌跡」……………92

### 文学

〔A〕 高橋和巳「孤独なる遊戯」……………99

〔B〕 寺田寅彦「俳句の精神」……………103

### 言語

〔A〕 西尾幹二「言葉と存在との出会い」……………109

〔B〕 柄谷行人「文字論」……………112

### 社会

〔A〕 松村圭一郎「うしろめたさの人類学」……………118

〔B〕 若林幹夫「想像としての現実」……………124

### 随想

〔A〕 谷崎潤一郎「客ざらい」……………129

〔B〕 小浜逸郎「これからの幸福論」……………133

## 文化(II)

① 四方田犬彦「ハイスクール・ブッキッシュライフ」……………139

② 吉田憲司「仮面という装置」……………144

## 科学

① 池内 了「科学と人間の不協和音」……………150

② 林 真理「操作される生命——科学的言説の政治学」……………157

## 芸術

① 栗津則雄「世紀末文化私観」……………164

② 谷川 渥「形象と時間」……………171

## 思想・哲学

① 保坂和志「世界を肯定する哲学」……………178

② 吉川浩満「バーナード・ウィリアムズ——道徳における運」……………185

## 小説

① 黒井千次「春の道標」……………192

② 志賀直哉「灰色の月」……………198